

第 1 回懇談会における論点（提出意見）

1. 対象とするリスクについて

- ・リスクの深刻さをあらためて認識する必要。
- ・社会基盤の相互依存性が高まっている現代はリスクがより大きい。
- ・ひとたび南海トラフ地震等が発生すれば国家全体へ大きな影響を与える。

2. 脆弱性の考え方、ナショナル・レジリエンス構築に向けた基本認識について

- ・レジリエンスと対比されるのは「短期的・狭域的合理性」であって、「長期的・広域的合理性」を重視する必要。
- ・従来の「防災・減災」は、現実の制度や枠組の中で、できることから始めるものであるのに対し、レジリエンスは国家100年の大計。
- ・短期的利益にとらわれない長期的発想が必要。
- ・「最悪の事態」から出発して国づくりを発想し直す、「事前復興」の視点が必要。
- ・「しなやかな回復」には、命を助けるだけでなく、地域を成り立たせる社会資本を確保する必要。
- ・甚大な災害を具体的に想定し、これに対する物理的に対処することが重要。
- ・「レジリエンス」の考え方のもと、人命が助かるという具体的方策が必要。
- ・経済等の秩序を保つためには、危機をいかに管理するのかという構想が必要。
- ・「人のつながり」に光をあててこれを再構築していく必要。
- ・大規模な震災では、「近所同士の協力」や「逃げる意識の保持」など、ソフト的な対応も大切。
- ・レジリエンスの目標（ゴール）は、達成可能な目標である必要。

3. 検討にあたっての視点

- ・既存の枠組みにとらわれない新たな発想、柔軟な発想が必要。
- ・社会インフラの「自律」・「分散」・「協調」の視点と、「統合運用」（分野別・官民・時間軸の統合）の視点が重要。
- ・レジリエンスを目指す上で、「分散」と「連携」、「縮減」と「活力」、「共同」と「協働」という視点が必要。
- ・「フロー」よりも、「ストック」に目を向けることが重要。
- ・レジリエンスの尺度として、国富（人、もの、金）を高める視点が必要。
- ・目標達成に向けて、一步一步成熟度を上げるような段階的アプローチもある。
- ・特定したリスクに対して判定基準を明確にしてリスクの評価を行い、スコープ（対策範囲）を決めること重要。

- ・ マクロの視点で考える上で、ミクロな視点から考えることもある。(例えば、既存不適格住宅の建て替え)
- ・ 食を含めた農林水産業のレジリエンスも重要。
- ・ 「ナショナル・レジリエンス」の定義をどうするかが一つの課題。
- ・ 東日本大震災では、事前の準備が必要であることを学んだ。
- ・ 自社でつくっている対策では、優先順位は、第一に人道支援、第二に地域の早期復旧、第三に自社の業務・生産復旧である。
- ・ 緊急事態に際して地域の第一線で即応できる会社が減り、ノウハウ継承が困難化してきている。
- ・ 省庁横断的なモデル事業のようなものをやってみるのはどうか。
- ・ 国民の理解を深めるレジリエンスの運動をどう展開していくか。